

全国一般神奈川

発行者
 全国一般労働組合全国協議会神奈川
 横浜市中区翁町 1-5-14
 新見翁ビル4F
 TEL. FAX.
 045-319-4391

9・17 第26回定期大会へ！

職場で、地域で、全国で、雇用と生活を守る取り組みと、
 反戦・反基地平和を求める取り組みをすすめよう！



昨年度第25回大会の様子

組合員の皆さん！
 全国一般神奈川は、来る9月17日、第26回定期大会を神奈川労働プラザで開催する。コロナ禍直後の資源の高騰と、円安政策による諸物価の高騰は、私たち労働者・生活者の生活を直撃している。更にロシアのウクライナ侵攻から1年半、戦火は深まり、世界を覆う緊張は、日増しに高まっている。こうした状況を共有化し、これから1年の活動方針をすべての組合員で確認してきたい。

田政権が声高々に賃上げを叫んでも、一部民間大手本労働者にしか波及していないことを、まずは確認していきたい。そこに生活必需品や食料品といった生活に欠かせない物価の高騰が直撃している。一部賃上げがおこなわれた労働者にとっても実質賃金はマイナスとなっており、私たち労働者のもとより、年金生活者をはじめあらゆる生活者が困難を極めている。安倍政権から続く「官製春闘」は、岸田政権に代わり、とも私たちに恩恵は無く、私たち自身が、職場で、地域で賃上げに向けた取り組みを強化していかなければならないことはさらに明確になった。

ロシアによるウクライナ侵攻は1年半を経て、収束どころか戦火は拡大している。岸田政権は、欧米側に立ち位置を鮮明にし、和平を働きかけるどころか、もはや一方の戦争加担者となっている。そして、中国、ロシア、北朝鮮の脅威を煽り、大幅な軍事費の増大と、敵基地攻撃を進めるための、南西諸島での軍事基地強化を進めている。大幅な軍事予算の増額は、一方で社会保障費の削減、将来的な増税を想定しており、まさに「国民の命と財産を守るため」という軍事費の増大は、皮肉にも私たちの命と生活を危機に陥れようとしている。

私たちは、今まさに貧困と、戦

争への道に直面していると言わざるを得ない。社会運動の一つである労働運動の役割は大きい。職場で、そして地域、全国で、雇用と生活を守る取り組みと、反戦・反基地平和を求める取り組みが必要となっている。

第26回定期大会

9/17(日)

14:30開場

15:00開始

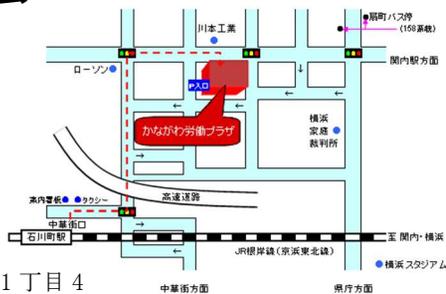
17:00終了

*終了後、懇親会開催

神奈川労働プラザ

〒231-0026

神奈川県横浜市中区寿町1丁目4



恒例カレーパーティー開催
 7/23支部代終了後に加藤農園の馬鈴薯を使ったカレーを皆で食べ交流を深めました。

スケジュール

- 8月9日 20時 事務所LINE 神奈川合同支部会議
- 8月10日 15時 平労会館 FF1500実行委員会
- 8月12～14日 寿公園 生活館 寿夏祭り
- 8月13日 10時 事務所 機関紙発送作業
- 8月20日 10時 事務所 神奈川PFT 横浜MCA会議
- 8月20日 14時 寿公園 寿労働相談
- 8月24日 16時 事務所 横浜交通開発会議
- 8月24日 19時 事務所 県共闘事務局会議
- 8月26日 15時 厚木ファミリー 郵政会議
- 8月27日 14時 事務所 第1回支部代表者会議
- 8月28日 19時 事務所 第1回担当者会議
- 8月31日 17時30分 横浜西口 JAL横浜西口情宣行動
- 9月9日～10日 13時 新橋 第2回全国一般全国協定期大会
- 9月12日 19時 事務所 第2回執行委員会

「学びの一日に」 神奈川ピースサイクル参加



横浜ノースドック付近を走る!

自転車リレーで、広島(8月6日)、長崎(8月9日)を目指す取り組みでした。

参加した工程初日は、川崎市平和館で館長の出席を得て出発式を開催、川崎市長のメッセージを頂き自転車が発進しました。

横浜・鶴見線国道駅にある機銃掃射の弾痕後の見学、横浜ノースドックに並ぶ揚陸艦の見学、横浜三沢公園にある横浜市戦没者慰霊碑の見学、昼食後は大和市の台湾人少年工慰霊碑の見学、厚木基地の見学と申入れと盛りだくさんの企画でした。

8月15日、78回目の敗戦記念日を迎えるとして、戦後長い月日が経ってなお、戦禍の跡は県下のいたるところに残されています。

7月17日から4日間の予定で開始された神奈川ピースサイクルに参加しました。神奈川県ピースサイクルは、県下の戦跡を見学し過去の戦争を学び地域の方との交流、また市町村を訪問し平和のメッセージを頂く活動をする中で、

2日目と3日目は県央12の市町村を自転車訪問メッセージを頂き、最終日は、神奈川に一番近い浜岡原子力発電所への申し入れで、静岡へバトンタッチし

(佐藤)

神奈川県共闘学習会

横浜ノースドック米陸軍揚陸艇部隊配備と日米軍事一体化

7月20日、横浜市技能文化会館において2023年度の県共闘学習会が「横浜ノースドック米陸軍揚陸艇部隊配備と日米軍事一体化」のテーマで、「すべての基地にNO!」をスローガンに19名の参加で夫氏を講師に19名の参加で行われた。木元さんから過去のノースドックの実態や運用が時系列でわかりやすく説明があり、特にベトナム戦争の際のノースドックの具体的な役割とそれに対する抗議活動(ノースドック相模原補給廠への米軍戦車修理搬送、補給廠前の座り込みと飛鳥田横浜市長による抗議、政府との交渉)は、今回の揚陸艇配備の目的、また今後私たち市民に何が出来るのかを考えるヒントにもなった。

岸田政権が狙うのは台湾有事を口実にした日米軍事一体化であり、そのためにノースドックを恒久的な軍事基地化して、沖縄県の各米軍基地や横田・横須賀や厚木などの他の基地との武器や人員の運用をスムーズにすることにあり、実際に小型揚陸艇の配備だけでなく、海兵隊402人を搭載したより大型揚陸艇の接岸や、国内法に照らしても違法な飛行場でもなく管制塔もないノースドックからオスプレイの離発着が行われている。墜落事故がいつ起こっても不思議ではない。

横浜の中心でまさに既成化している、なし崩し的な軍事基地化に対して、地域の行政や市民を巻き込んだ闘いを共に進めていきましょう。

(八木)

2023最低賃金審議会での意見を提出!

日本の経済は「人件費を抑えて企業の利益を確保する」というやり方ではどうにもならないところに来ています。「持続可能な社会」を皆が考えざるを得ない局面にきています。最低賃金は、これらの情勢に対応し、「未来を展望したもの」でなければなりません。

派遣・有期労働者を取りまく状況は益々厳しくなり、最低賃金で働く労働者の賃金は、家計補助や学生のこずかい稼ぎのアルバイトなどではなく、むしろ最賃で働く労働者が、家計を担っているのが現実です。また、そういった家庭で育つ子供たちは家事労働、アルバイトに忙殺されており、やっとな進学出来ても、卒業後は、奨学金のローン返済地獄が待っています。故に、将来の結婚や出産もおのずと敬遠されがちです。今、社会で「少子高齢化の問題」が叫ばれていますが、最低賃金の問題と決して無縁ではありません。

最賃審議会も毎年労働局への答審で、下請け単価のアップ等の意見を添付していますが、それに対する行政からの回答、検討結果の報告はほとんど聞きません。結局「言わせ放し」になっています。

最賃審議会には最賃で働く労働者の参加を公募して最賃労働者の意見の反映も図るべきです。

最低生計費は、1カ月1500時間労働として、時給1500円で計算すると(月)225000円+15000円(物価昇分)の最低賃金が必要という計算結果が出てきます。

その上で、①全国一律の最賃制の確立(交通網が発達して、インターネットで業務が可能な社会になりつつあり、都市への人口集中は「地方創成」に逆行しています)②本工・非正規の格差の是正③下請け単価の改善(大企業の内部留保を放出させ、中小下請けからの利益の吸い上げを止めるべきです)④安定した労働力確保のための労働者の保護政策の拡充⑤少子高齢化問題の解決が求められています。皆が生き生き働ける社会の実現に向け最賃の大巾値上げを!共に闘おう!

(采山)